

## 令和5年度 第2回 益田地域保健医療対策会議

(第2回医療・介護連携部会/地域医療構想調整会議関係者会議)

日 時：令和5年11月13日(月)

19:30～21:00

場 所：益田合同庁舎 大会議室

### 開会あいさつ

### 議 事

#### 報告事項

保健所から「益田圏域における医療機能の現状と課題」の報告(資料1)

- ・「令和5年度島根県内19市町村単位での人口推計、医療介護需要の推計及び分析」を受けた益田圏域の課題

#### 協議事項

第8次医療計画・医師確保計画の策定について(資料2)

- ・医療計画スケジュール(資料2-1)
- ・医療計画部分(現状・課題と施策の方向)(資料2-2)
- ・医療連携体制図(資料2-3)
- ・健康増進計画部分(現状・課題と施策の方向)(資料2-4)
- ・外来機能計画(資料2-5)
- ・医師確保計画(資料2-6)

意見交換 「益田圏域の課題と施策の方向性」

#### その他

- ・地域医療拠点病院に対する支援の拡充について(対象 津和野共存病院)(資料3)

#### まとめ

# 益田圏域の課題と今後の方向性（案）

島根県益田保健所

産業医科大学 松田教授

「島根県内19市町村単位での人口推計・医療介護需要の推計作業及び分析作業」  
報告書から見えてくること

【3つのパターン】

- ① 2040年まで慢性期医療及び介護需要の増加するタイプ  
→松江市・出雲市
  
- ② 2040年くらいまで慢性期の医療及び介護需要が維持され、  
その後需要が急減するタイプ  
→雲南市・浜田市・**吉賀町**・隠岐の島町
  
- ③ すでに慢性期の医療及び介護需要も減少傾向しているタイプ  
→邑智郡

\* 病院と診療所及び介護施設との連携を強化することで在宅ケアの提供量を  
増やすことが期待できる地域：出雲市・**益田市**

### 3市町の人口構造及び傷病構造の変化

	益田市	津和野町	吉賀町
人口構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1990年以降人口減少しているのに<u>男女とも85歳以上の人口増が多い</u>。</li> <li>・ 女性は2040年に90歳以上の人口が最も多くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1990年以降人口が減少。</li> <li>・ 若年世代の減少量が極端に大きく、人口構造で高齢者世代を支えることは相当程度に困難。</li> </ul>	
医療需要	外来・入院ともに減少	外来・入院ともに減少	
傷病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>骨折・肺炎・脳血管疾患・心不全の入院が2030年前後まで維持</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨折・肺炎・脳血管疾患・心不全の入院受療率の現状維持は観察されない</li> </ul>	
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 傷病の<u>介護現場での予防・連携の強化が必要</u>。</li> <li>・ <u>前期高齢者と現役世代から医療介護人材を適切に確保することがサービス提供体制の維持につながる。この視点での政策が重要。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現役世代が少ない中で<u>効率的に医療及び介護サービスを提供できるかが課題</u>。</li> <li>・ <u>介護予防の視点で、生活支援が課題になる。</u></li> <li>・ <u>隣接する市町との共同事業の創生が不可欠。</u></li> <li>・ <u>中山間地としてICT活用も不可欠。</u></li> </ul>	

### 3市町の要介護度別・サービス別需要の変化

	益田市	津和野町	吉賀町
人口構造	・団塊の世代の高齢化に伴い、2040年まで介護需要が10～20%増加。以後減少。	・高齢者人口の減少局面に入っている。	・2040年までニーズは維持、その後急減。
介護ニーズ	・要介護1、要介護2の増加	・すでに減少。	・現状と横ばい
サービス需要	・外来、一般病棟、在宅医療は全国並み。訪問診療の提供が少ない。慢性期を主に介護施設で引き受けている。 ・地域包括ケア病棟の入院、介護施設とショートステイサービスの提供量が全国より多い。	・介護サービス提供体制の維持が重要な課題。 ・ <u>慢性期の高齢者に対してケアを行いやすい医療・介護の提供体制の構築が必要。</u>	・ <u>現状の介護サービス提供体制を如何に維持するかが重要な課題。</u> ・ <u>島根県内・隣接する県の中核都市と離れていることから、特に高齢者救急のあり方が問題。</u>
今後の方策	・ <u>地域包括ケア病棟利用が多いのに在宅ケアの提供量が少ないことから、地域包括ケア病棟の地域における役割について検討が必要。</u>	・ <u>医療・介護・住まいの総合的なサービス提供体制（複合体）の検討が必要。</u> ・益田市の医療機関が、津和野町をどのように支えていくかについての検討も必要。	・ <u>心不全、肺炎、尿路感染症、脳梗塞等は、症状悪化及び発症の予兆の変化に高齢者自身・家族・介護職が注意することで早期対応が可能。住民教育が必要。</u>

## 松田先生のメッセージを受けて整理した今後の方向性

- ①圏域内医療・介護連携の充実
- ②在宅医療のあり方検討
- ③慢性疾患の症状悪化・発症の予兆についての教育・連携
- ④介護予防の視点で生活支援の充実

# ①圏域内医療・介護連携の充実

## 【医療機能連携協定】

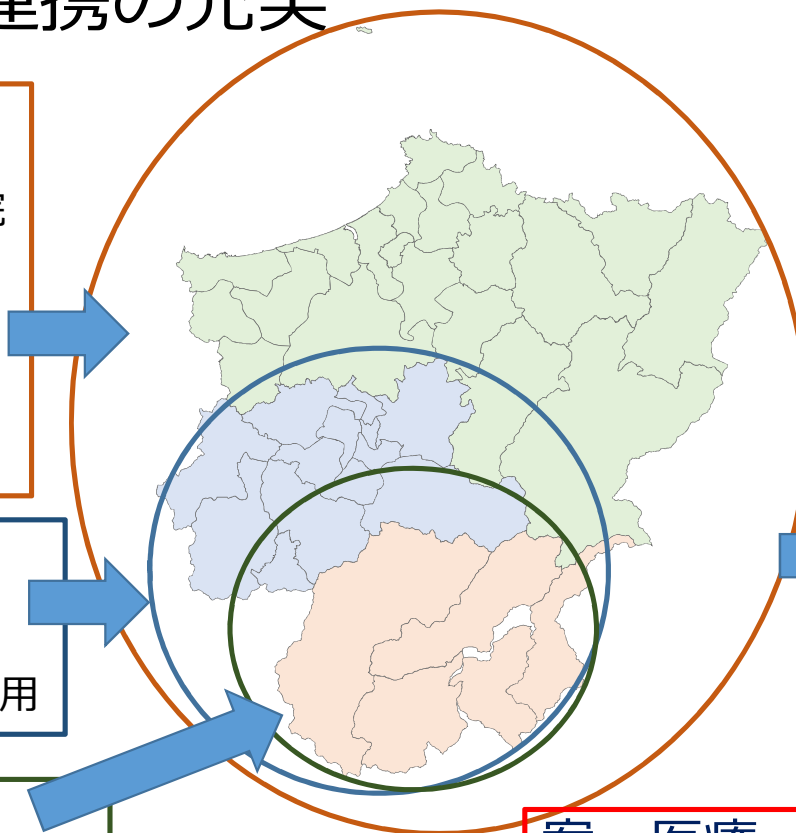
- ・ 益田赤十字病院
  - ・ 益田地域医療センター医師会病院
  - ・ 津和野共存病院
  - ・ 六日市病院
  - ・ 松ヶ丘病院
- 急性期・回復期・慢性期の機能分担・圏域内連携の促進

## 【地域医療連携法人】

- ・ 津和野町
  - ・ 吉賀町
- 2町の医療機能を活かした共同利用

## 【包括連携協定】

- ・ 吉賀町
  - ・ 益田赤十字病院
- 専門的かつ実践的な助言等を受け吉賀町の医療介護体制の再構築を実現



点から面の展開を意識

## 案 医療・介護の圏域内完結の検討

- 医療病床機能の確認・調整
- 慢性期の受け皿
- 地域包括ケア病棟の活用 他

## ②在宅医療のあり方検討

### 【益田市】

- ・国保診療所  
(美都・匹見)
- ・無医地区巡回診療所  
(柏原・二条・美濃地・飯浦・小野・中西)

### 【津和野町】

- ・無医地区巡回診療所  
(須川・木部)

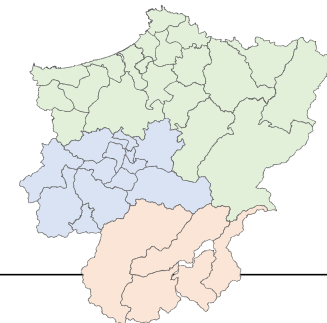
### 【吉賀町】

- ・今後のことをどう考えるか



### 【これから心配な材料 例】

- ・現行の診療所の維持が困難 (医師・スタッフ)
- ・スタッフの移動が大変・巡回診療できない地域もある
- ・公共交通路線のアクセスが難しい地域の受診困難者
- ・インターネット回線が届いていない地域  
(オンライン診療等の整備に困る)



### 案 持続可能な在宅医療の検討

○巡回診療車の導入

○ICTの検討 (入退院連携等) →インターネット回線の充実が必要

○診療看護師・訪問看護師とのタスクシフトの検討 他



### ③慢性疾患の症状悪化・発症の予兆についての教育・連携

【すでに起こっていること】

- ・慢性疾患（心不全・肺炎等）の入院患者が増加
- ・本人が帰りたいたいといって退院するが、数日で体調悪化し入退院を繰り返す



【5病院の病院ヒアリング+益田圏域実務者会議で頂いた意見】

☆圏域全体で共通した

「心不全」患者・家族への教育・意思決定支援（ACP）が必要

【案 情報連携ツール・患者向け教育媒体の検討】

- 主治医の説明を本人・家族・支援者が、病気の状態を理解し、治療で大切なことを共通理解できる
- 医療・保健・介護関係者が連携し、退院を繰り返さない仕組みを作る 他

## ④介護予防の視点で生活支援の充実

【益田圏域医療・介護実務者会議で頂いた意見】

- ☆安心して在宅に帰って療養できる仕組みづくりが必要  
(特に受診等の移動支援、服薬・食事内容の確認・見守り)

【案 各市町の地域包括ケアシステム構築の検討につなげる】

- 住民と一緒に住み続けられるまちのあり方を検討
  - ・ プラットフォームをつくる
  - ・ 医療を守る市民の会の立ち上げ・継続
- 各市町の在宅医療・介護連携事業の中で検討
  - ・ 地区単位の地域診断を生活支援コーディネーター等と実施
  - ・ 病院・医師会・行政との話し合いを増やす
- 庁内連携
  - ・ 住まい・交通・インターネット等の担当課と横断した検討



## 今後の進め方について

- ①圏域内医療・介護連携の充実
- ②在宅医療のあり方検討
- ③慢性疾患の症状悪化・発症の予兆についての教育・連携
- ④介護予防の視点で生活支援の充実



「これから、さらに一緒に学んで、語り合うことが大切」

例○巡回診療車

○プラットフォーム

○ロードマップ・・・

第8次保健医療計画の策定スケジュール

資料2-1

	県庁	保健所 (圏域記載部分、医療連携体制図)
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機能調査 調査票発送</li> </ul>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機能調査集計結果確定</li> </ul>	18日 第1回地域保健医療対策会議 (第1回医療介護専門部会 同日開催)
8月	22日 第1回医療審議会(骨子審議)	病院ヒアリング 
9月		
10月		
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>素案確定</li> </ul>	13日 第2回地域保健医療対策会議(圏域素案協議) (第2回医療介護専門部会 同日開催) <ul style="list-style-type: none"> <li>圏域素案確定</li> </ul>
12月	22日 第2回医療審議会(素案審議) <ul style="list-style-type: none"> <li>パブリックコメント、意見照会開始</li> </ul>	
1月	↓ ↓ ↓ <ul style="list-style-type: none"> <li>パブリックコメント、意見照会終了</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見への対応、計画案の修正</li> </ul> ↓ ↓ <ul style="list-style-type: none"> <li>最終案の確定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見への対応、計画案の修正</li> </ul> ↓ ↓ <ul style="list-style-type: none"> <li>最終案(圏域記載部分・連携体制図)の確定</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回医療審議会(最終案の諮問・答申)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回地域保健医療対策会議(報告)</li> <li>医療介護専門部会(報告)</li> </ul>

## 【益田圏域の状況】（現状・課題と施策の方向）

保健医療計画全体

## (1) がん

	現状 (○)・課題 (■)	施策の方向
圏域	<p>○コロナ禍でも開催方法や情報共有の方法を工夫しながら、緩和ケアアドバイザーとの連携を図り、事例検討会等で医療機関と地域の看看連携の取組を図っています。</p> <p>○ACP の啓発は各市町を中心に、住民向け、関係者向けに進められてきています。</p> <p>■女性の胃がん、乳がんを除き、40～64歳の年齢調整死亡率が県より高い状況です。また、発見経緯割合や進行度割合から、他圏域と比べ、がん検診等での発見割合が低く、進行してがんと診断されることが多いと考えられます。</p> <p>■在宅での看取りが安心してできるような体制を整えていく必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・益田圏域がん予防対策検討会や市町担当者会議で検討を行い、近年需要が高まっている対策型胃内視鏡検診の導入や、結核検診と肺がん健診の同時実施等、がん検診実施体制の検討を行います。</li> <li>・益田圏域地域・職域連携推進連絡会、益田圏域健康長寿しまね推進会議等を通じて働き盛り世代のがん検診、精密検査の受診率向上に向けた取組を行います。</li> <li>・切れ目ない緩和ケアの提供のため、緩和ケアアドバイザーと協力し医療機関と地域の連携を図ります。</li> <li>・在宅での看取りについては、在宅療養支援病院とともに地域のバックアップ体制の強化を図ります。</li> <li>・ACP の啓発を各市町の実情に合わせて継続していきます。</li> </ul>

## (2) 脳卒中

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○脳血管疾患の年齢調整死亡率は全年齢、壮年期（40～69歳）ともに県と比べて高く、特に壮年期において県と比べ差が大きいです。また、脳卒中の年齢調整初発率が県と比較して高い現状です。</p> <p>■急性期の外科治療が実施できる医療機関は圏域内になく、圏域外・県外医療機関との連携が必要です。その体制の中、罹患による生活機能障害を少なくするため、早期受診・早期治療の必要についての普及啓発が引き続き必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「脳卒中等情報システム事業」及び「脳卒中発症者状況調査」による脳卒中患者の情報分析を行い、脳卒中発症の状況を評価するとともに、脳卒中の発症予防、基礎疾患の重症化予防に向けた生活習慣病適正管理の対策を継続します。</li> <li>・不足する高度急性期・急性期の医療については、圏域、県を超えた医療連携や早期に救急搬送することができる救急医療体制の確立により補完を図ります。また、急性期・回復期・維持期では、「地域クリティカルパス」や「脳卒中等情報システム事業」による保健指導等により、医療・保健・介護サービスの連携を図ります。</li> </ul>

(3) 心筋梗塞等の心血管疾患

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○虚血性心疾患の年齢調整死亡率は、県と同等の数値です。一方、65歳以上の心不全の、年齢調整死亡率は、男女とも増加しています。</p> <p>■慢性心不全による入院が多く、在宅や施設での心不全の疾患管理が課題です。特に独居の方や、サービス介入が難しい地域は、十分な支援が行き届いていない状況です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心筋梗塞等の心血管疾患の一次予防の推進や慢性心不全の増悪を予防するための基礎疾患や危険因子の管理の推進について多職種で連携を進めるため、益田圏域循環器病対策調整会議や市町担当者会にて検討し、発症予防、基礎疾患の重症化予防に向けた生活習慣病適正管理の対策を継続します。</li> <li>心不全の疾患管理について、施設・在宅における心不全の療養管理について医療介護従事者で目線合わせを行います。</li> </ul>

(4) 糖尿病

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○糖尿病年齢調整有病率は、男女とも横ばいで推移しています。また、人工透析患者も横ばいで推移しています。原因疾患は、糖尿病性腎症が一番多いです。</p> <p>○歯周病は糖尿病や心臓・血管系疾患等と密接に関連していますが、働き盛り世代の歯周病の有病率が増加しています。</p> <p>■糖尿病の合併症予防や重症化予防のためには、一般診療所医師と糖尿病専門医、腎臓病専門医、眼科医、歯科医師等の連携体制が必要です。</p> <p>■糖尿病が重症化するリスクの高い未受診者・治療中断者やハイリスク者については、関係機関からの適切な受診勧奨や保健指導を行い、適切な治療や生活にかなげる必要があります。</p> <p>○看護師不足で、施設利用者のインスリン管理等が難しい状況です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>益田圏域糖尿病支援ネットワーク会議や市町担当者会における取組を通じて、発症予防や重症化予防、糖尿病の診断・治療・生活指導が適切に実施されるような体制の整備を行います。また、益田圏域糖尿病連携ファイルにより、多職種での連携を進めます。</li> <li>歯科医師会と連携し、歯周疾患対策を継続して取組みます。</li> <li>地域での重症化予防として、島根県糖尿病性腎症重症化予防プログラムの推進を図ります。</li> <li>施設利用者の医療的ケアについて医療介護連携を話し合う場での協議を進めていきます。</li> </ul>

(5) 精神疾患

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの協議の場が圏域会議に加え3市町にできており、地域で安心して暮らせる体制構築が進みました。</p> <p>■入院者の高齢化、在宅サービスの地域格差、社会資源の不足や長期入院等の課題があり地域生活にむけて重層的な支援体制を構築する必要があります。</p> <p>○認知症については、圏域版認知症チェックリストを活用した住民への普及啓発多職種の対応力向上、顔の見える関係作りを目的として、松ヶ丘病院と連携し認知症支援懇話会や認知症サポート医連絡会を開催しています。</p> <p>○ひきこもりについては、ひきこもり支援センター地域拠点「いっぽ」が関係機関と連携してケース検討会や相談対応等を行っています。</p>	<p>○病院と連携したケース検討会において出た地域課題を協議の場での検討や研修会に反映させ、障がい者も暮らしやすい地域づくりを進めます。</p> <p>○「啓発活動の充実を図り、認知症になっても住みよい地域を目指す」「認知症の人や家族の視点を踏まえた取組を推進する」「医療・介護・地域の連携体制の推進を図る」「認知症に関わる者の対応力の向上を目指す」の4つの柱を軸に認知症になっても安心して住める地域づくり支援の推進を目指します。</p> <p>○心の健康づくりについての啓発、相談窓口の周知に取組み、早期に必要な医療が受けられるよう地域との連携体制を構築します。</p>

(6) 救急医療

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○初期救急については、益田市内は休日応急診療事業で担っています。鹿足郡は在宅当番医制度が平成31年度に廃止され、津和野共存病院と六日市病院が救急外来にて初期救急の受入をしています。</p> <p>■二次救急については、入院機能を担う「救急告示病院」として、益田赤十字病院、益田地域医療センター医師会病院及び六日市病院を認定しています。益田赤十字病院の救急外来受診が増加しています。</p> <p>○3次救急については、県内の高度救命救急センターである4つの病院（国立病院機構浜田医療センター等）と連携してい</p>	<p>・現状の救急医療体制の維持充実に努め、各市町や住民団体等と連携し、コンビニ受診、時間外受診を控える啓発を継続します。また、各市町の電話相談事業の周知を継続します。</p> <p>・二次救急、三次救急については、医療機関連携を促進し、医療機能の水準の維持充実に努めます。また、救命率の向上や後遺症の軽減を図るために、ドクターヘリを活用し、県内の医療機関、消防機関等との緊密な連携により、効果的な運航体制の維持を図ります。</p>

	ます。状況に応じて隣接した県外の医療機関への搬送もあります。	
--	--------------------------------	--

(7) 災害医療

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○災害拠点病院である益田赤十字病院に、災害医療コーディネーター2名、災害時小児周産期リエゾン1名の登録があります。また、同院に DMAT が 1 チーム設置しています。</p> <p>○今年度から、益田地域災害医療保健福祉調整会議とし、福祉の連携充実を意識した組織改正を行っています。</p> <p>■東部と比べ、原子力災害に関する研修を受ける機会が乏しく、知識不足です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害拠点病院である益田赤十字病院と平常時から情報交換を行い、連携を図ります。</li> <li>・平時より、災害医療関係機関の情報共有、連携強化を図るため、益田地域災害医療保健福祉会議等を開催します。</li> <li>・県庁等と連携し、原子力災害に関する情報提供を行います。</li> </ul>

(8) 感染症に対する医療（感染症予防計画）【仮】

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○コロナで施設内クラスターを経験したことから、各施設で BCP や感染予防対策、備品の備蓄等の対応が進んでいます。</p> <p>■高齢者施設でコロナ感染症の病状管理だけでなく、ADLの低下や基礎疾患の重症化につながり、対応に苦慮されました。コロナ及び新興感染症に備え、病院と施設医、施設関係者との連携体制の確認・準備が必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対応の経験を活かし、様々な感染症に対応できる施設内療養のあり方を、医療・介護関係者と検討しあい、必要な情報提供に努めます。</li> <li>・圏域の医療保健介護の関係機関と定期的な感染症に関する意見交換会・研修会を開催し、目線合わせを行います。</li> </ul>

(9) 地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保）

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○益田地域医療センター医師会病院が、益田市内の無医地区 6 か所の巡回診療の取組を実施しています。また、津和野共存病院では、須川地区の巡回診療を実施し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療を支えるために、島根大学をはじめとする大学医学部、医療機関、群市医師会、市町、県、地域住民と連携し、地域医療の現状を課題に即した取組を進めます。</li> </ul>



	<p>ています。</p> <p>■医師の高齢化に伴い、開業医の閉院が相次いでいます。へき地診療所医師の高齢化も課題で、地域医療を担う医師・歯科医師確保が課題です。また、学校医や予防接種など公衆衛生を含む一次医療の持続について検討や調整が必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回診療、へき地診療所への医師派遣等、地域医療拠点病院が実施している医療活動が充実に向けて、施設整備や人材育成等に対し、支援します。</li> <li>・医療従事者が安心して充実した勤務ができるような勤務環境整備や、医師の働き方改革に関する啓発を、関係機関や住民団体と連携して取り組みます。</li> <li>・遠隔診療や、医療情報ネットワークの活用について、益田地域保健医療対策会議や各市町の医療介護連携事業等で検討します。</li> </ul>
--	---	--

(10) 周産期医療

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○地域周産期母子医療センターである益田赤十字病院が開催する地域周産期母子保健医療連絡会において、圏域の分娩医療機関と行政で連携を図っています。</p> <p>■産後ケア事業等において、分娩医療機関（1 機関）と地域に複数ある開業助産院の連携が求められています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、地域周産期母子保健医療連絡会において、圏域の現状や課題の検討を行い、分娩医療機関と行政の連携を図ります。</li> <li>・地域周産期母子医療センターと地域の開業助産院との連携の充実を図ります。</li> </ul>

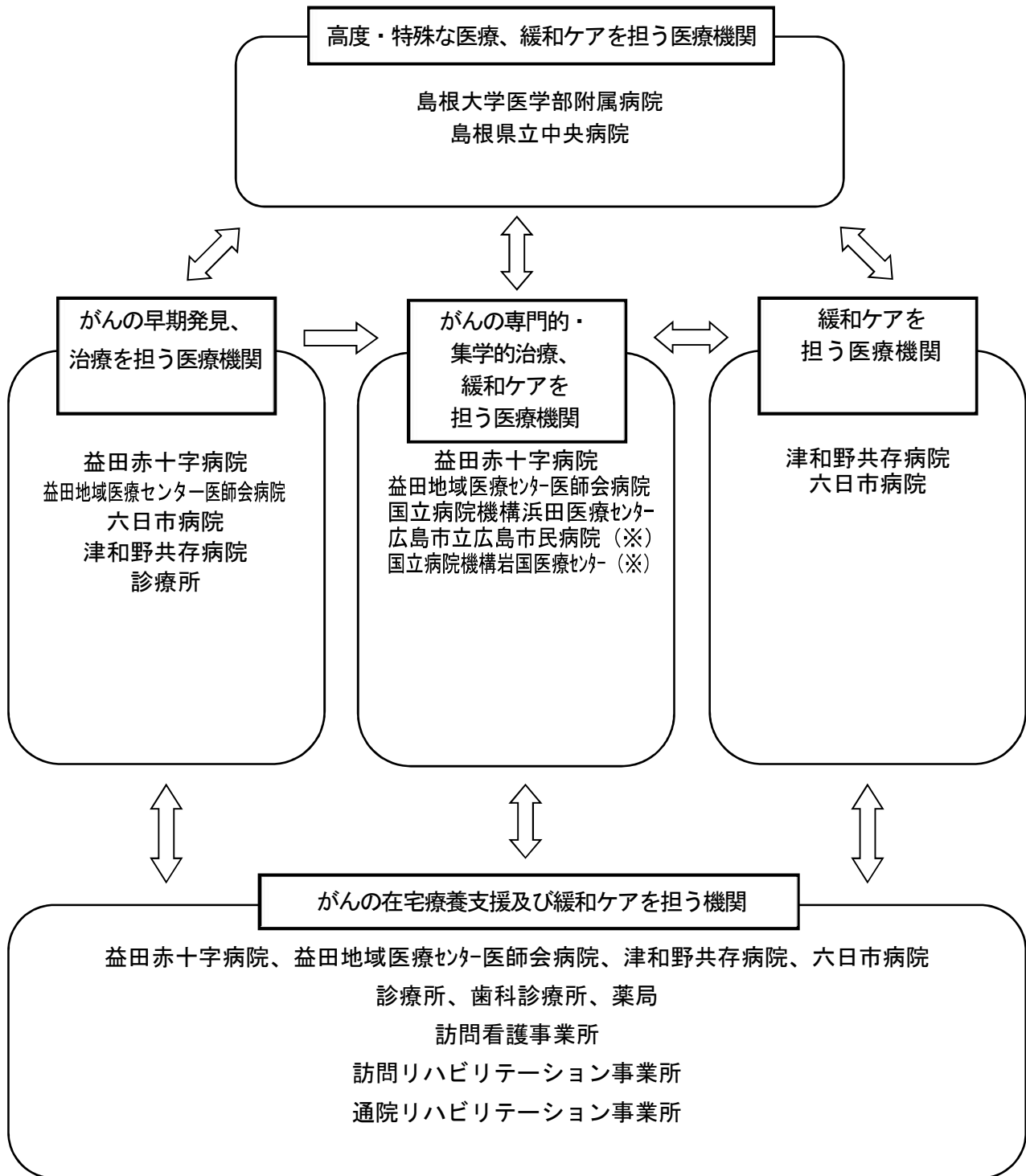
(11) 小児救急を含む小児医療

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○医療的ケア必要児や退院後も支援が必要な子どもについて、退院前から病院より保健所に情報提供があり、退院前もしくは退院直後から関係機関と連携し支援しています。</p> <p>■小児科を標榜する開業医が年々減少しており、益田赤十字病院外来に患者が集中しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・益田赤十字病院において入院医療に対応できる小児救急医療体制整備の確保に努めます。</li> <li>・島根県医療的ケア児支援センターのコーディネーターや関係機関と連携を図ります。</li> <li>・病院総合診療医や、内科開業医の協力も得ながら、小児医療を維持します。</li> </ul>

(12) 在宅医療

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○管内の訪問看護ステーションが6か所あるうち、鹿足郡は1か所と少ない状況です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護ステーション協会と連携を密にし、現状把握や共同した研修会を企画実施します。</li> </ul>

<p>○高齢化に伴い、心不全や腎不全等の慢性疾患、老衰の看取り等の対応が増加しています。</p> <p>■今後も80歳代以上の高齢人口は横ばいで、医療・介護だけでなく移送や買物等、生活全般の支援が必要です。</p> <p>■遠方に住む家族は、独居が難しくなると施設入所希望をする傾向にあります。本人の意思決定を尊重した終末期のあり方を一緒に考えることが必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・高齢者の慢性疾患（心不全・腎不全等）や生活習慣病の管理について、医療介護関係者と支援のあり方（意思決定支援等）について検討します。</li><li>・市町の医療・介護連携事業、地域支援事業と連携し、住み慣れた地域で最期まで過ごせる地域づくり（地域包括ケアシステム）の構築を図ります。</li><li>・元気なうちから、本人家族と終末期について話し合っておく「アドバンスケアプランニング」の啓発を継続します。</li></ul>
---	--



\* 「麻薬の調剤」「居宅での調剤」を実施している薬局については、「[島根県医療機能情報システム](#)（[島根県医療政策課ホームページ](#)）」を参照して下さい。

(がん検診で「要精密検査」となった人を対象とする精密検査を実施する医療機関)

がんの種別 医療機関名	益田赤十字病院	益田地域医療センター 医師会病院	津和野共存病院	六日市病院
胃がん	○	○	○	○
肺がん	○	○	○	○
大腸がん	○	○	○	○
子宮がん	○	○		
乳がん	○	○		

(肝炎ウイルス検査で「陽性」となった人を対象とする専門的な検査を実施する医療機関)

益田赤十字病院、石見クリニック、医療法人好生堂和崎医院

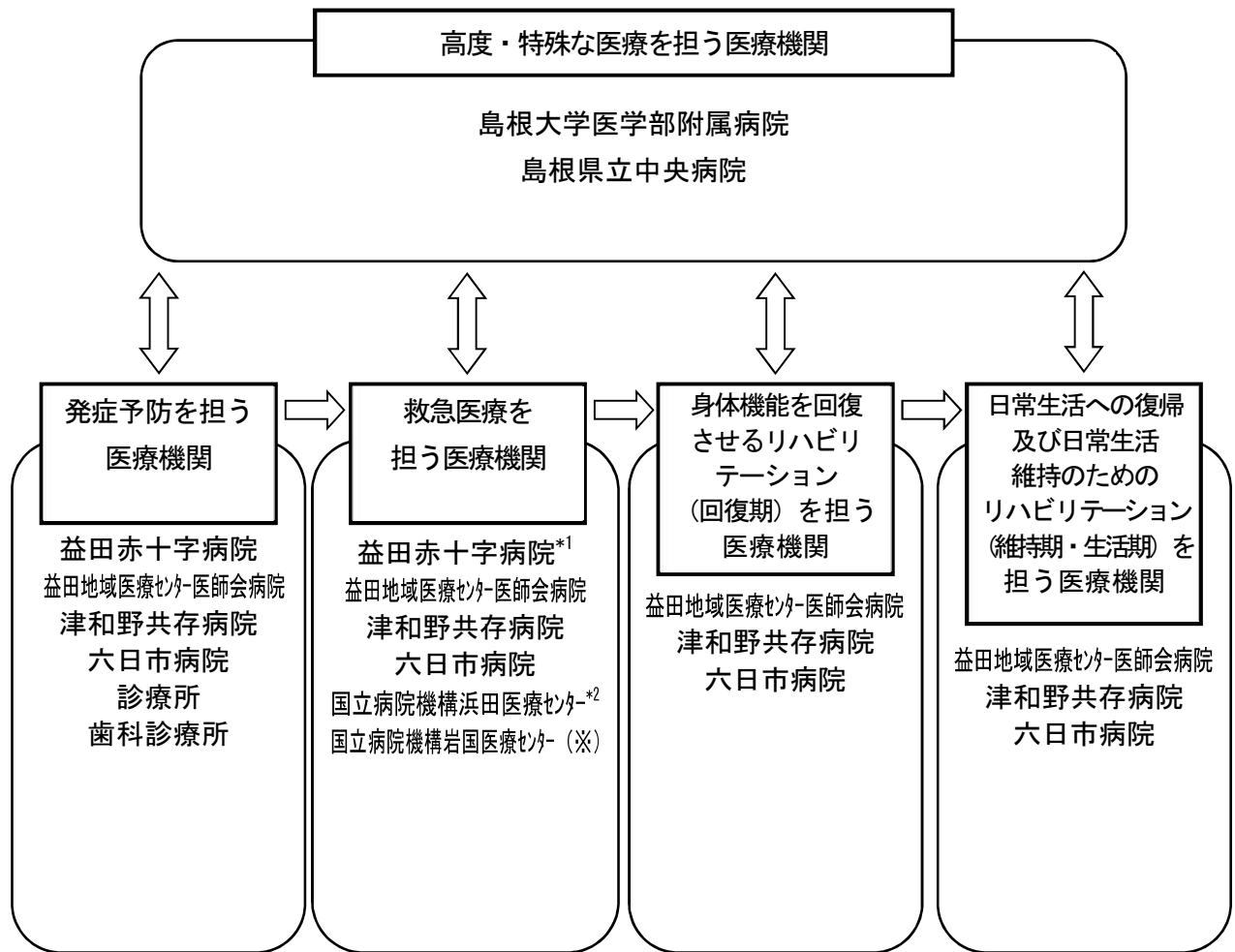
(主要ながんの治療を行う医療機関一覧)

【凡例】 ①手術療法 ②薬物療法 ③放射線療法

がんの種別 医療機関名	益田赤十字病院	益田地域医療センター 医師会病院	津和野共存病院	六日市病院	国立病院機構浜田 医療センター
胃がん	①②	①②			①②③
肺がん					①②③
大腸がん	①②	①②			①②③
子宮がん	①②				①②③
乳がん	①②	①②			①②③
肝がん	①②				①②③

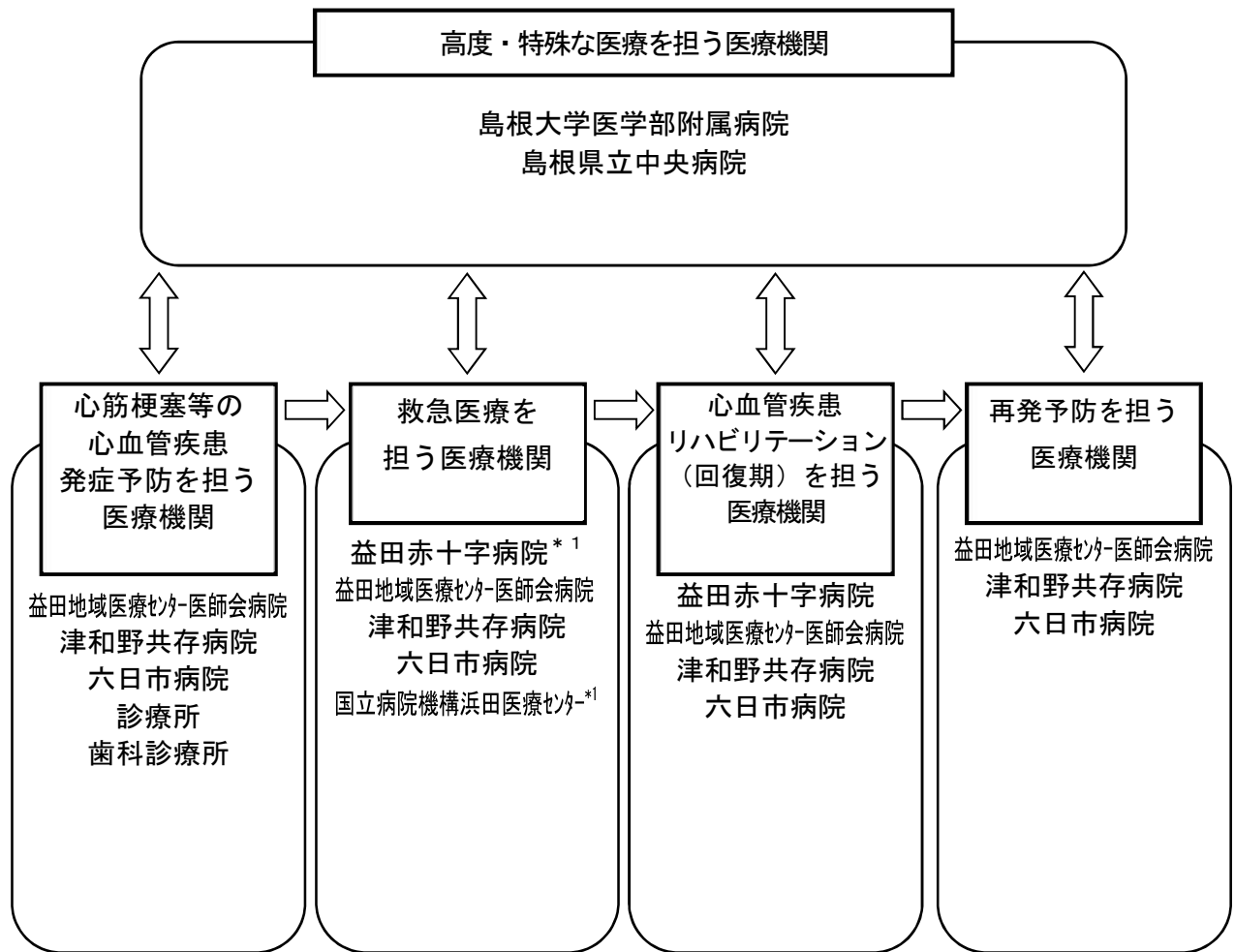
\*その他のがん治療については、「[島根県医療機能情報システム\(島根県医療政策課ホームページ\)](#)」を参照して下さい。

**【脳卒中・益田圏域】**



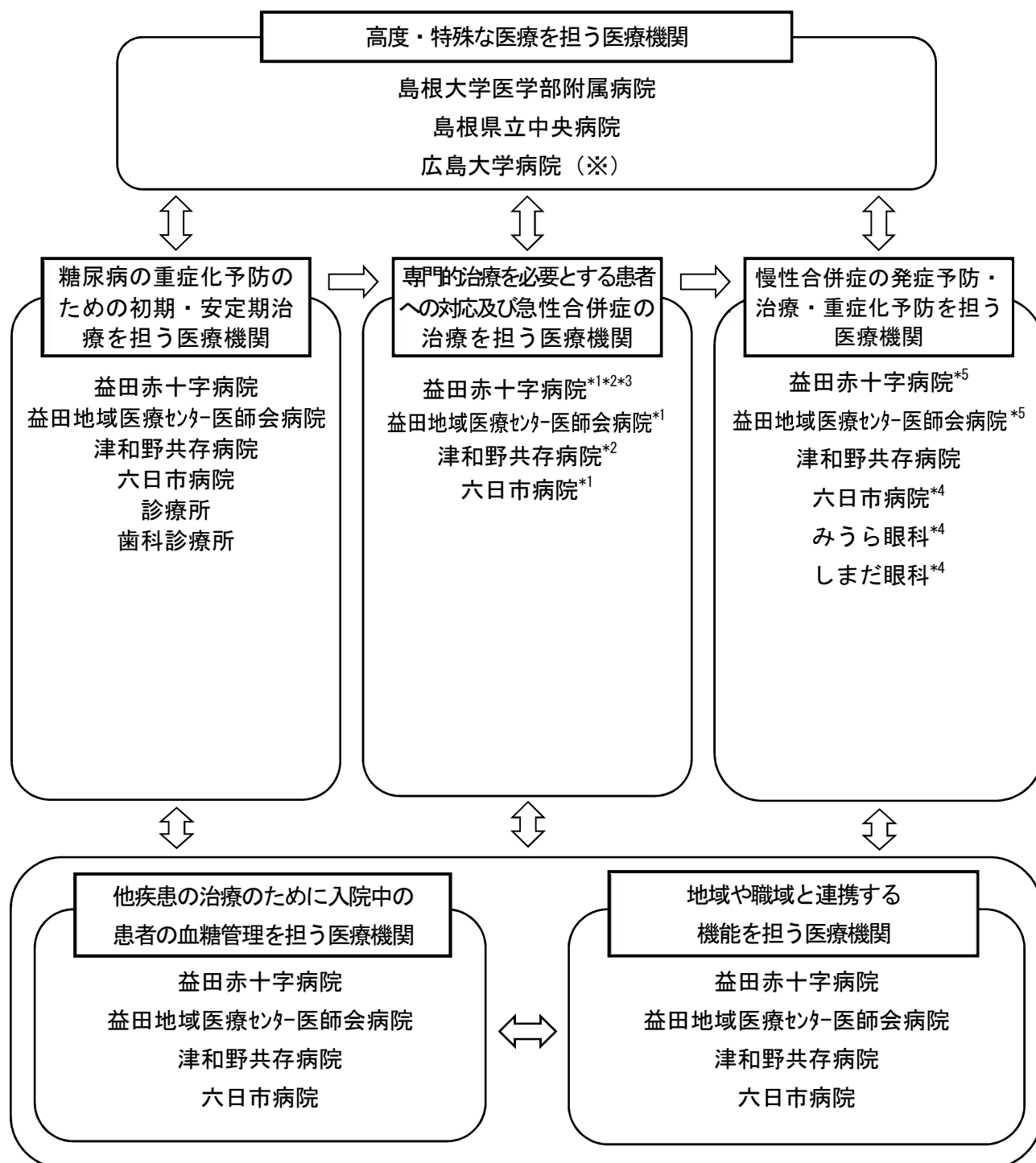
\*1 は組織プラスミノゲン・アクチベータ (t-PA) の静脈内投与による血栓溶解治療を行う病院  
 \*2 は脳卒中の外科的治療を行う病院

## 【心筋梗塞等の心血管疾患・益田圏域】



\*1 は冠動脈造影検査および適応があれば経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を行う病院

## 【糖尿病・益田圏域】



\*1 は、糖尿病昏睡等合併症の治療が 24 時間実施可能な病院

\*2 は、糖尿病昏睡等合併症の治療が 24 時間実施可能であることに加えて、

75gOGTT 検査、HbA1c 検査を実施し、各専門職種チームによる食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等の集中的治療（心理問題を含む。）が可能で、食事療法、運動療法を実施するための設備を有する病院

\*3 は、糖尿病患者の妊娠に対応可能な病院

\*4 は、蛍光眼底造影検査、光凝固療法、硝子体出血・網膜剥離等の手術が可能な病院又は診療所

\*5 は、尿一般検査、尿中アルブミン排泄量検査、腎臓超音波検査、血液透析が可能な病院又は診療所

## 【精神疾患・益田圏域】

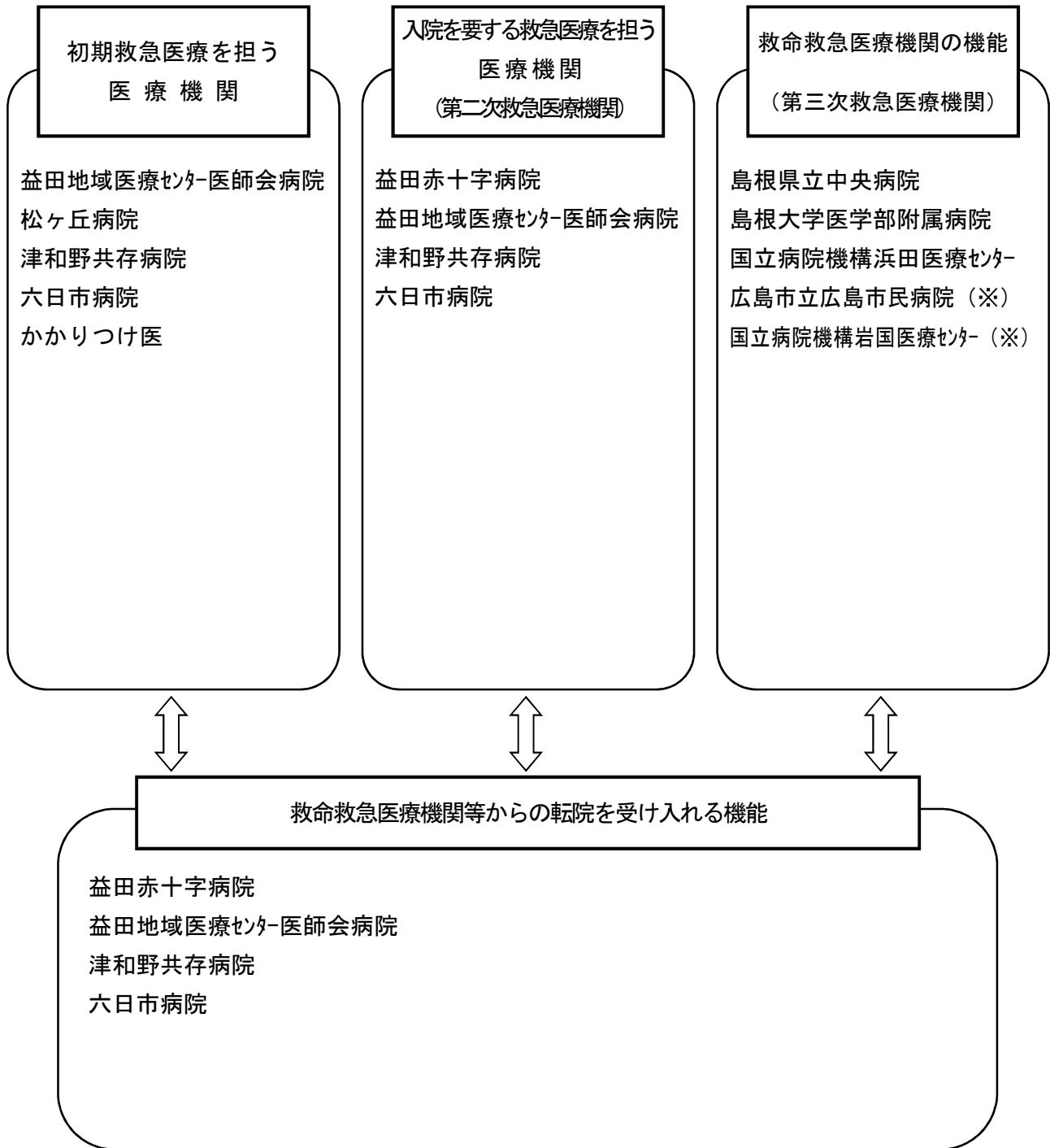
		各疾患への対応状況											精神科医療体制の状況				
		統合失調症	うつ病・躁うつ病	認知症	児童・思春期精神疾患	発達障害	依存症			PTSD	高次機能障がい	摂食障がい	てんかん	精神科救急	身体合併症への対応	新興感染症への対応	自殺未遂者への対応
							アルコール	薬物	ギャンブル								
病院	松ヶ丘病院	◎	◎	◎☆	◎	◎	◎	◎	◎☆	◎	◎☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	津和野共存病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西川病院	◎	◎	◎☆	◎	◎	◎☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
診療所	さくらクリニック益田	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
	おちハートクリニック	○	○	○							○						○
	中島こどもクリニック				○	○						○					
訪問看護ステーション	松ヶ丘病院 訪問看護	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	●
	益田市医師会 訪問看護ステーション	●	●	●							●	●	●		/	/	
	津和野共存病院 訪問看護		●	●			●				●		●		/	/	
	訪問看護 ハレルヤ	●		●											/	/	
	訪問ステーション 秋桜	●	●	●			●	●	●	●	●	●			/	/	
	吉賀町訪問看護ステーション	●	●	●			●				●				/	/	
	訪問看護ステーション 花Hana	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		/	/	

### \* 本表の見方について

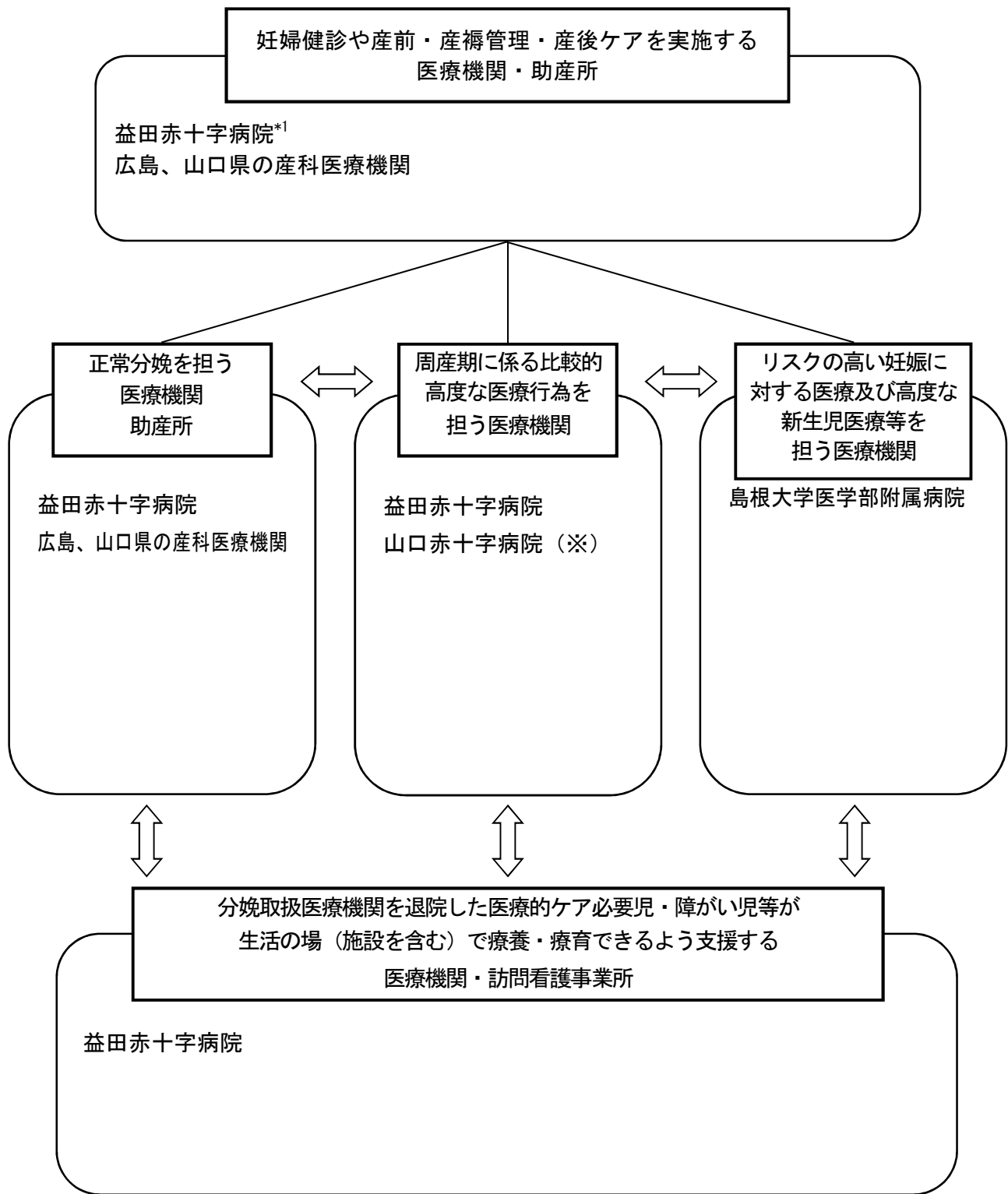
- ・各疾患への対応状況及び自死対策：通院医療を提供している医療機関は○  
入院及び通院医療を提供している医療機関は◎  
訪問看護を提供できる訪問看護ステーションは●
- ・精神科救急：一次救急のみに対応している医療機関は○  
二次救急にまで対応している医療機関は◎
- ・身体合併症：対応している医療機関は○、ただし、精神科で対応可能な範囲及び他の医療機関と連携して対応している場合を含みます。
- ・☆印は県の連携拠点病院。ただし、現在連携拠点として機能している病院についての記載であり、今後追加等の変更の可能性があります。



## 【救急医療・益田圏域】

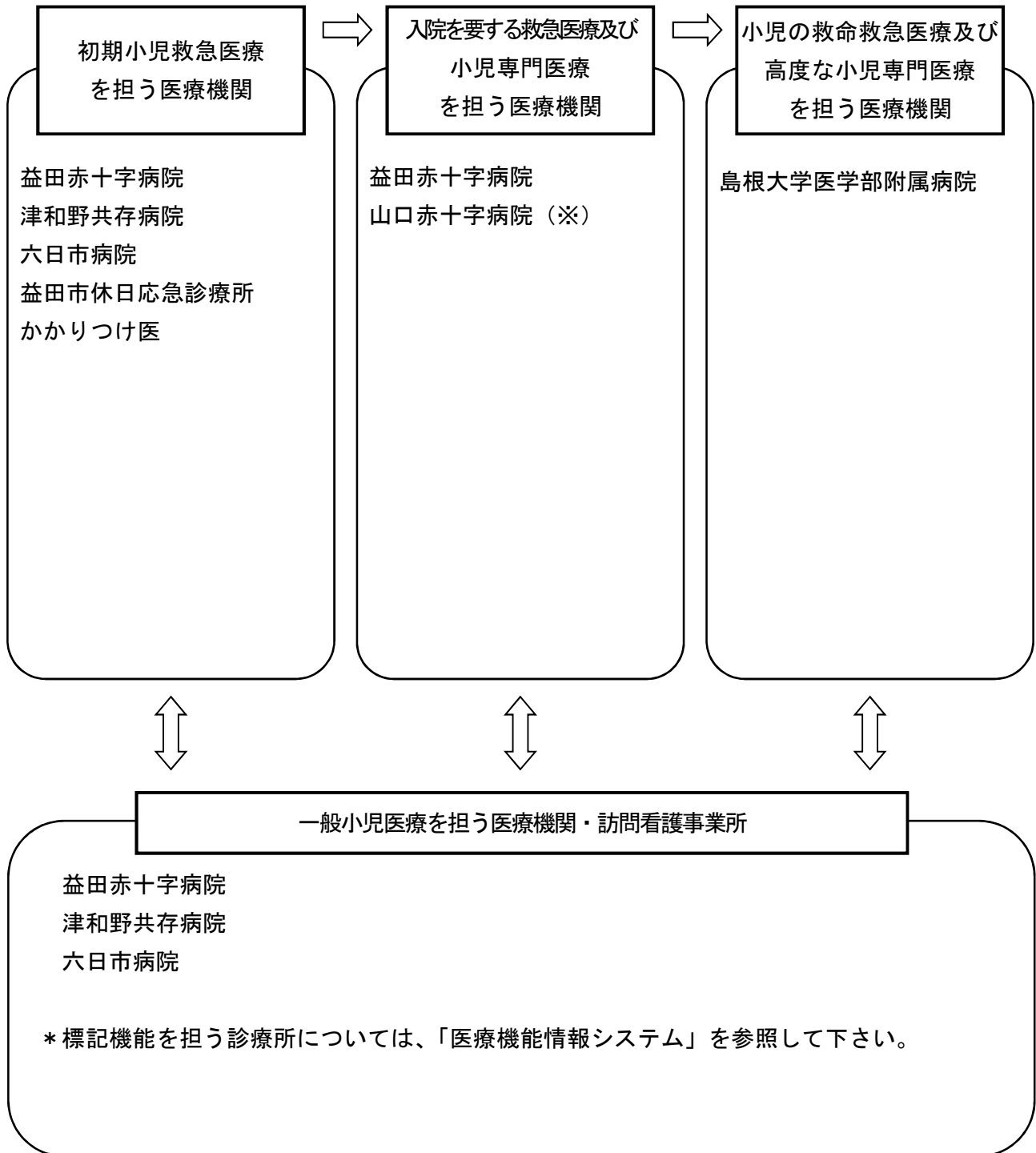


## 【周産期医療・益田圏域】

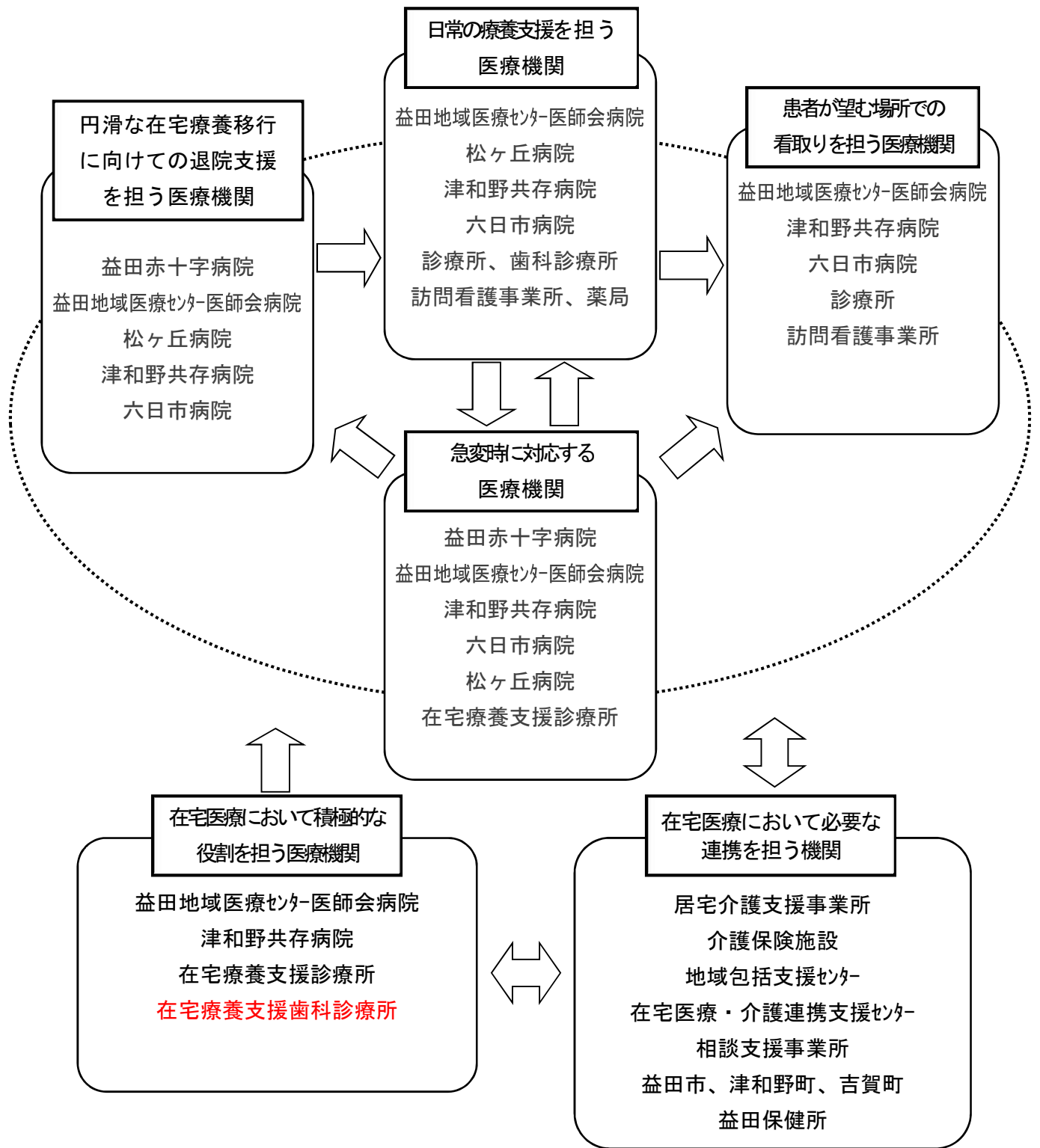


\*1 は、妊婦検診を行う病院・診療所

## 【小児救急を含む小児医療・益田圏域】



## 【在宅医療・益田圏域】



\* 「在宅患者訪問診療を実施している診療所」「往診を実施している診療所」については、「医療情報ネット」を参照して下さい。

\* 「歯科訪問診療を実施している歯科診療所」「訪問歯科衛生指導を実施している歯科診療所」については、「医療情報ネット」を参照して下さい。

\*「一般用医薬品の服用等や介護等の相談対応を実施している薬局」「各薬局の時間外対応状況」については、「医療情報ネット」を参照して下さい。

\*在宅療養支援診療所については、別表を参照して下さい。

別表：在宅医療において積極的な役割を担う診療所：在宅療養支援診療所 9カ所

(令和5年4月1日現在)

医療法人金島胃腸科外科	まついクリニック
医療法人 津田医院	たかせ内科
あすかクリニック	石見クリニック
村野医院	医療法人たいじん堂 松本医院
医療法人順生会 すみかわクリニック	

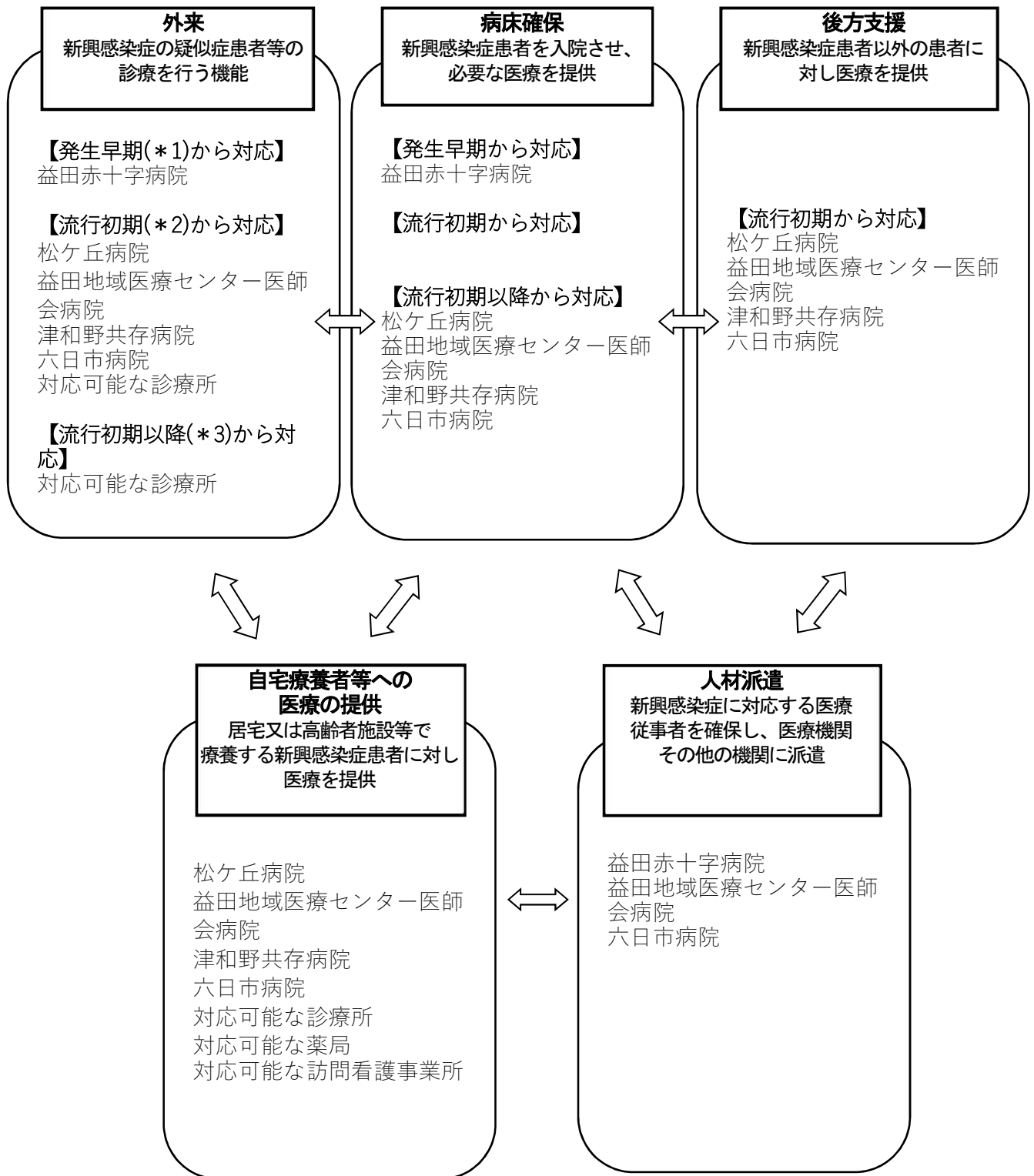
## 【災害医療・益田圏域】

災害拠点病院	災害拠点精神科病院	災害協力病院
島根県立中央病院 益田赤十字病院	島根県立こころの医療センター	益田地域医療センター医師会病院 六日市病院

**【地域医療・益田圏域】**

へき地における 保健指導の機能	へき地における 診療の機能	へき地の診療を 支援する 医療の機能	行政機関等による へき地医療の支援
<p>益田保健所 益田市 津和野町 吉賀町</p>	<p>【益田市】 匹見道川診療所（国保） 美都診療所（国保） 美都診療所 二川出張診療所（国保） 美都診療所 東仙道出張診療所（国保） 匹見澄川診療所（国保） 【津和野町】 日原診療所</p>	<p>【益田市】 益田地域医療センター 医師会病院 益田赤十字病院 【津和野町】 津和野共存病院 【吉賀町】 六日市病院</p>	<p>県 県地域医療支援機構</p>

## 【新興感染症に対する医療・益田圏域】



\*1 発生早期 感染症法に基づく厚生労働大臣による新興感染症発生の公表前

\*2 流行初期 厚生労働大臣による新興感染症発生の公表後3か月までを基本に政令で定められた期間

\*3 流行初期以降 流行初期(\*2)経過後



## 【益田圏域の状況】（現状・課題と施策の方向）

健康長寿しまね（健康増進計画）

## 推進の柱1 住民主体の地区ごとの健康づくり活動促進

現状（○）・課題（■）	施策の方向
<p>○圏域内の各市町に健康づくり推進会議が設置され、地区ごとの健康づくり活動が市町を中心に取り組まれています。</p> <p>○島根創生計画に位置づけられた「しまね健康寿命延伸プロジェクト」では、津和野町青原地域にモデル地区を設け住民主体の健康なまちづくりを推進しており、住民、関係機関、行政等が協働し地域の健康課題解決に向け取組が展開されています。</p> <p>■モデル地区活動で培った健康づくりの取組を、今後他地区へ波及していくことが求められています。住民自身が「ありたい地域の姿」を描き、多様な資源と協働しながら実践する地域づくり、働き盛り世代も参加できる地域づくりを推進していくことが必要です。</p>	<p>○市町を中心に関係機関・団体等、多様な実施主体と協働し、住民主体の健康づくり活動を促進するために重層的な取組を推進します。</p> <p>○地域や職域で活発に健康づくり活動を継続しているグループ・事業所を表彰し、その取組を情報発信することで健康づくり活動の促進を図ります。</p> <p>○モデル地区活動で培った仕組みづくりを市町、関係機関で共有し、それぞれの地域にあった健康なまちづくりの取組をさらに発展させていきます。</p>

## 推進の柱2 生涯を通じた健康づくりの推進

現状（○）・課題（■）	今後の方向性
<p>○平均寿命は男女とも延伸しています。また、65歳平均自立期間は男女とも延伸し、県平均より高い傾向があります。</p> <p>○8020達成者の割合は増加し、県平均よりも高い傾向があります。また、20～79歳において、1年に1回以上歯科医院に行き管理している者の割合は男女とも増加していますが、市町の調査によると働き盛り世代の男性の割合が女性に比べて低い傾向があります。</p> <p>○20～79歳において、毎日2合以上飲酒する男性、毎日1合以上飲酒する女性の割合は増加傾向が見られます。また、習慣的に喫煙している女性も増加しています。</p> <p>○20～79歳において、運動習慣や歩行習慣をもつ者の割合は、男性は増加していますが、女性は減少傾向が見られます。</p> <p>○65歳以上のBMI20以下の低栄養傾向の者の</p>	<p>○圏域住民の健康の状況を把握し、各ライフステージ（乳幼児から高校生、青壮年期、高齢期）に応じて、構成団体や関係機関と連携し、生涯を通じた健康づくりを推進します。</p> <p>○例えば、20歳未満の飲酒・喫煙対策、働き盛り世代の歯科受診や運動習慣の定着、高齢者の低栄養や、フレイル、オーラルフレイル対策など、ライフコースアプローチを踏まえた取組を推進します。</p> <p>○事業所と連携して従業員に対する健康づくりの取組を進め、地域全体でより効果的・効率的な健康づくりを推進します。</p>

<p>割合は、男性は減少していますが、女性は増加し、県平均よりも高い傾向があります。</p> <p>■栄養・食生活、運動、飲酒、喫煙、歯等の生活習慣を改善するために、住民が地域とつながりを保ち、自然に健康になれる環境づくりの取組を行う必要があります。</p>	
---	--

推進の柱3 疾病の早期発見、合併症予防・重症化予防

現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
<p>○市町では特定健康診査の受診率や特定保健指導の実施率向上、がん検診の受診率向上を目指した取組をしており、受診率、実施率は年々増加しているものの目標値に届いていません。</p> <p>○各市町において、ハイリスク者への保健指導・受診勧奨、特定保健指導や健康教室が行われています。圏域において、医科歯科薬科などの様々な職種が連携し疾病の早期発見、合併症予防・重症化予防の取組を実施しています。</p> <p>■住民一人ひとりが自身の健康に関心を持つことができるよう、構成団体や市町村、民間企業等有機的な連携や社会環境の整備が必要です。また、地域の好事例を全体へ広げていく等、多職種、他機関での取組をさらに推進する必要があります。</p>	<p>○特定健康診査やがん検診の受診率向上及び特定保健指導、健康教室の実施率向上のために、構成団体同士が連携し啓発を行います。</p> <p>○県民一人一人に適切な疾病管理について正しい知識を普及するため、様々な機関と連携した情報発信を行い、ヘルスリテラシーの向上を図ります。</p> <p>○重症化予防の環境整備を進めるとともに、保健医療関係者の資質向上のための研修体制の整備を進めます。</p>

推進の柱4 多様な実施主体による連携のとれた効果的な運動の促進

現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
<p>○構成団体や関係機関と連携して多様な取組や啓発活動を進めています。また、構成団体や関係機関が主体的に健康づくりの学習と活動に取り組めるように情報提供や活動交流を行っています。</p> <p>■健康なまちづくりを進めるためには、地域における多様な分野と連携し、幅広い対象に向けた健康づくりを推進していく必要があります。</p>	<p>○構成団体や関係機関など地域の多様な資源が繋がって協力し合い、多様な主体が健康づくりに取り組むプラットフォームづくりを行います。</p>

# 第6節 益田医療圏

## 外来機能計画部分

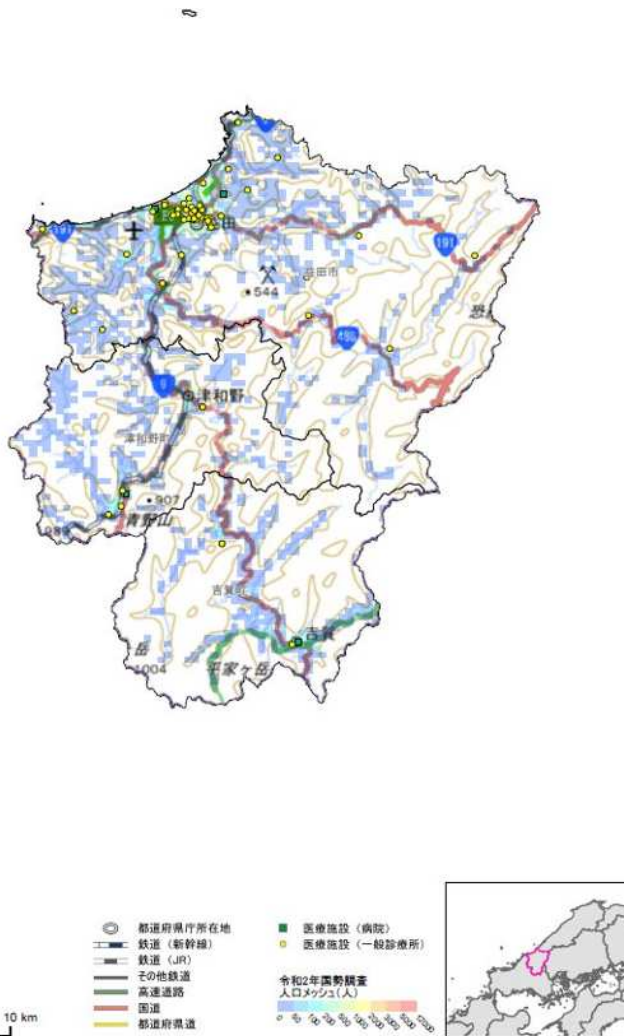
### 資料2-5

#### (1) 概況

益田医療圏の概況				外来医師多数区域				—			
外来医師偏在指標	外来医師偏在指標	87.8	医療施設数	病院	一般診療所	在宅医療に関する施設数	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	在宅療養支援診療所		
	一般診療所従事医師数	49		益田圏域	5		71	益田圏域	1	0	9
	標準化診療所従事医師数	49		益田市	3		56	益田市	0	0	9
	診療所外来患者対応割合	77.5%		津和野町	1		9	津和野町	1	0	0
	順位	242		吉賀町	1		6	吉賀町	0	0	0

#### ○施設配置状況

— 医療施設所在地マップ（厚生労働省提供）より —  
 医療機関マッピング（地方厚生局届出情報）



#### ○医療機器保有状況

機器名	医療機関名（台数）（R5時点）			
	病院		診療所	
CT	5	益田赤十字病院（1） 益田地域医療センター 医師会病院（1） 津和野共存病院（1） 六日市病院（1） 松ヶ丘病院（1）	3	永瀬脳外科内科（1） 金島胃腸科外科（1） 石見クリニック（1）
MRI	4	益田赤十字病院（1） 益田地域医療センター 医師会病院（1） 津和野共存病院（1） 六日市病院（1）	1	永瀬脳外科内科（1）
PET	0	なし	0	なし
放射線治療	0	なし	0	なし
マングラフィ	2	益田赤十字病院（1） 益田地域医療センター 医師会病院（1）	0	なし

(2) 現状と課題及び今後の方向性

①全体の方向性	<p>○益田圏域は、国が示す外来医師偏在指数では、その他の区域ですが、開業医の高齢化が進み、後継者不足もあり、将来的に不足となることが予測されます。</p> <p>○今後、外来医療機能維持のためには、巡回診療等の地域の実情に応じた開業形態のあり方や、効果的なICT活用等について検討が必要です。</p>
②【初期救急医療の提供体制】	<p><b>ア) 現状と課題(提供体制)</b></p> <p>○益田市では休日応急診療事業(休日応急診療所、在宅当番医)が継続しています。</p> <p>○鹿足郡では開業医の減少、基幹病院の医師の減少により体制維持困難となり、在宅当番医制を平成31年3月に終了し、津和野共存病院と六日市病院2病院が鹿足郡の初期救急の受け入れを行っています。</p> <p>○益田赤十字病院では、コロナ対応により救急外来受診(特に夜間救急)がさらに増加しています。また、圏域内だけでなく近隣の自治体(山口県・浜田市)からの利用もあります。</p> <p>○ドクターヘリの運用により、救急体制が充実しました。</p> <p>○圏域内の小児科は益田赤十字病院と益田市内の小児科診療所が3カ所であり、鹿足郡内に小児科はありません。夜間休日の小児救急は、益田市の休日応急診療事業での対応もされていますが、益田赤十字病院小児科医の負担は大きい状況です。</p> <p><b>イ) 実績</b></p> <p>○益田市休日応急診療事業による受診状況 R2年度 422件 R3年度 600件 R4年度 925件</p> <p><b>ウ) 今後の方向性</b></p> <p>○かかりつけ医を持ち、休日夜間の体調不良時の対応について医師と相談する啓発が必要です。</p> <p>○軽症の小児救急に協力できる医師を増やす必要があります。</p>
③【在宅医療の提供体制】	<p><b>ア) 現状と課題</b></p> <p>○診療所医師の高齢化が進んでおり、在宅医療を担う医師の後継者が不足しています。益田地域医療センター医師会病院が、在宅医療を提供する医療機関を支援するため、在宅療養後方支援病院として体制整備を進めています。</p> <p>○圏域の面積が広く、訪問診療や訪問看護等の負担が大きい状況です。中山間地域では、訪問診療や訪問看護、居宅系介護サービスを受けることができない地域もあります。</p> <p>○中山間地では、かかりつけ医への通院の交通手段確保が困難な患者がいますが、公共交通機関も不便であり、交通手段について支援の検討が必要です。</p> <p>○連携ツールとしてのまめネット・MCS等ICTの活用は進んでいません。地域の実情に合った使いやすい連携ツールの活用について検討が必要です。</p> <p>○益田市医師会では、医療介護総合確保基金 医療連携推進コーディネーター配置事業を活用し、「在宅医療に関する医師の意見交換会」「益田圏域における医療連携実務者会議」等を行い、圏域内の医療介護連携について情報交換・課題抽出を行っています。</p> <p><b>イ) 今後の方向性</b></p> <p>○病院・診療所、行政において、圏域全体の在宅医療体制について具体的な検討が必要です。(医師・看護師の人材不足の解消につながるICT(まめネット等)の活用促進、在宅診療医・訪問看護師・認定看護師・特定行為看護師等の人材育成と活用等)</p> <p>○各市町と、受診等の交通手段の確保を中心に生活支援体制の充実させていく必要があります。</p> <p>○圏域全体で、自分の病気の理解をし、本人・家族等と治療を考える意思決定支援(ACP)を検討・定着させていく必要があります。</p>
④【産業医、学校医、予防接種等の公衆衛生に係る医療提供体制】	<p><b>ア) 産業医</b></p> <p>○認定産業医(益田市医師会35人、鹿足郡医師会5人)</p> <p>○生活習慣病予防・重症化予防、メンタルヘルス対策等、働き盛りの健康づくりの支援の連携が必要です。</p> <p><b>イ) 学校医</b></p> <p>○益田市、鹿足郡ともに学校医の確保が困難な状況です。</p> <p>○鹿足郡の学校の耳鼻科等の学校医は益田市内、県東部から確保をしています。確保困難な診療科医師については、全県的に支援ができる体制整備が必要です。</p> <p><b>ウ) 予防接種等</b></p> <p>○予防接種医の確保が困難な状況です。</p> <p>○乳幼児検診、発達クリニックの医師確保が困難な状況です。</p> <p><b>エ) 今後の方向性</b></p> <p>○産業医:益田市医師会、鹿足郡医師会との連携が必要です。</p> <p>○予防接種、健康診断等:大学や西部島根医療福祉センターとの連携が必要です。</p>
⑤その他	<p><b>ア) 現状と課題</b></p> <p>○診療所は、後継者が不足しています。</p> <p>○圏域5病院の医療機能連携協定により、急性期・回復期・慢性期の機能分担を図っています。また、津和野町と吉賀町間で地域医療連携法人化、吉賀町と益田赤十字病院間で包括連携協定を締結し、医療機能の維持・連携を進めています。</p> <p><b>イ) 今後の方向性</b></p> <p>○当圏域の医療の状況や魅力を発信してくれる医師が必要です。</p> <p>○引き続き、医療機能連携協定・地域医療連携法人化・包括連携協定の強みを生かした外来機能の維持を図ります。</p>

### (3) 医療機器の効率的な活用に係る計画

機器名	共同利用の方針
CT	○益田赤十字病院（1台）、益田市地域医療センター医師会病院（1台）、津和野共存病院（1台）、六日市病院（1台）、松ヶ丘病院（1台）、3か所の診療所（各1台）に配置している。 ○益田赤十字病院、益田市地域医療センター医師会病院は、地域医療支援病院として、機器の共同利用体制を整備している。また、他の医療機関の共同利用については、医療機関間で患者紹介する形で実施されており、今後もより効果的に利用できるよう、連携を図っていく必要がある。
MRI	○益田赤十字病院（1台）益田地域医療センター医師会病院（1台）津和野共存病院（1台）六日市病院（1台）1か所の診療所（1台）に配置している。 ○益田赤十字病院、益田市地域医療センター医師会病院は、地域医療支援病院として、機器の共同利用体制を整備している。また、他の医療機関の共同利用については、医療機関間で患者紹介する形で実施されており、今後もより効果的に利用できるよう、連携を図っていく必要がある。
PET	○圏域内には配置はない。 ○共同利用については、現在も圏域外の病院において患者紹介の形で実施されている。今後も共同利用のための連携を図る必要がある。
放射線治療	○圏域内には配置はない。 ○共同利用については、現在も圏域外の病院において患者紹介の形で実施されている。今後も共同利用のための連携を図る必要がある。
マンモグラフィ	○益田赤十字病院（1台）、益田市地域医療センター医師会病院（1台）に配置 ○他の医療機関の共同利用については、医療機関間で患者紹介する形で実施されており、今後もより効果的に利用できるよう、連携を図っていく必要がある。

## 6 益田圏域

### ■ 医師全体

#### 1 現状と課題

- ・益田圏域は、国の医師偏在指標では、医師少数区域となっています。
- ・圏域全体で医師（看護師）確保が難しく、病院では特に慢性期機能が不足し患者の圏域外流出が起っています。また、診療所医師の高齢化・後継者不足により、一次医療や訪問診療の提供体制が困難な状況になっています。
- ・益田赤十字病院と3病院（益田地域医療センター医師会病院、津和野共存病院、六日市病院）は、医療機能連携協定書を締結し、益田圏域全体の医療を守る取組を進めています。また、益田赤十字病院と津和野町において、医療機能連携支援協定を締結し、医療介護連携等を進めています。

#### 2 施策の方向

- ・益田圏域全体で協力しながら、医師確保につながる取組を推進します。（例 5病院で地域枠の医師及び研修医を支援する体制の整備・保健医療対策会議等関連会議で意見交換）
- ・しまね地域医療支援センター、自治医科大学等と連携し、総合診療医の育成を推進します。
- ・県医療介護総合確保促進基金を活用し、研修環境整備等を推進します。

### ■ 産 科

#### 1 現状と課題

- ・益田圏域は、国の医師偏在指標による、産科医の相対的医師少数区域です。
- ・益田赤十字病院の産婦人科医は、令和5年10月現在、常勤医師4名です。益田赤十字病院は、「地域周産期母子医療センター」として、県西部地域において比較的高度な周産期・新生児医療を提供しています。
- ・圏域の分娩取扱施設は、益田赤十字病院1カ所のみです。
- ・圏域内の助産所は6カ所あります。

#### 2 施策の方向

- ・益田赤十字病院の機能を維持するため、同病院の助産師外来や院内助産等により助産師と産科医の協働・役割分担を進めるとともに、圏域内の助産院との連携を強化します。
- ・ハイリスク妊婦となることを予防するため、圏域全体で妊婦の健康管理体制を強化します。

### ■ 小 児 科

#### 1 現状と課題

- ・益田圏域は、国の医師偏在指標による、小児科医の相対的医師少数区域です。
- ・益田赤十字病院と小児科の標榜診療所9か所がありますが、診療以外に市町の乳幼児健診や予防接種等の公衆衛生に係る業務の対応に苦慮しています。

#### 2 施策の方向

- ・現状の医師数を保つために、医師の負担軽減につながる取組を進めます。（小児救急電話相談（#8000）や各市町の健康ダイヤルの活用啓発、小児の在宅医療に係る多職種連携等）

# 地域医療拠点病院に対する支援の拡充

令和5年度  
予算額10,000千円

## 1 背景

- 中山間地域においては、人口減少による患者数の減少に加えて、開業医の高齢化・後継者不足により診療所が閉院するなど、身近な医療の維持が課題。
- 今後、こうした地域では、地域医療（へき地）拠点病院がこれまで以上に地域の診療支援を拡大していくことが求められるため、拠点病院に対する支援を強化することが重要。

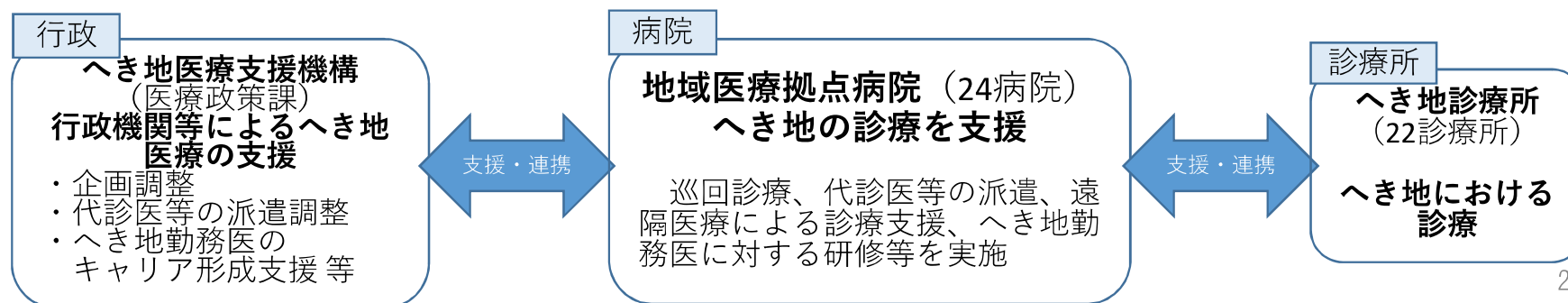
## 2 拠点病院の運営に対する支援の拡充

特に医療サービスが不足している中山間地域（重点支援地区）において、拠点病院が**新たに実施**する以下の取組について、国のへき地拠点病院運営費補助金を活用して支援。

- (1)無医地区等における巡回診療
- (2)へき地診療所等への代診医の派遣
- (3)オンライン診療 等

- 補助率 国：1/2 県：1/2 活動内容ごとに基準額あり、赤字部分（不採算）が支援対象
- 対象経費 巡回診療、医師派遣等に必要な経費、医療費、情報通信機器等経費 など
- その他 重点支援地区は、中山間地域※において、市町村や医療機関、保健所など関係者で支援が必要と合意が得られた地域とする予定  
※中山間地域：島根県中山間地域活性化基本条例第2条に定める地域

### 〔参考〕へき地医療支援体系



地域医療拠点病院一覧(24病院)

圏域	病 院 名	指定年月日
松江	松江赤十字病院	H15.4.1
	安来市立病院	H15.4.1
	社会医療法人昌林会 安来第一病院	H22.1.1
	松江市立病院	R2.3.18
	独立行政法人 地域医療機能推進機構 玉造病院	R2.3.18
雲南	雲南市立病院	H16.2.12
	奥出雲町立奥出雲病院	H16.2.12
	飯南町立飯南病院	H16.2.12
	医療法人陶朋会 平成記念病院	H19.8.30
出雲	県立中央病院	H15.4.1
	島根大学医学部附属病院	H16.2.12
	出雲市立総合医療センター	H16.2.12
大田	公立邑智病院	H15.4.1
	社会医療法人仁寿会 加藤病院	H15.4.1
	大田市立病院	H18.7.31
浜田	独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター	H15.4.1
	社会福祉法人恩賜財団島根県済生会 江津総合病院	H20.1.1
	社会福祉法人島根整肢学園 西部島根医療福祉センター	H20.4.1
益田	公益社団法人益田市医師会立 益田地域医療センター医師会病院	H15.4.1
	益田赤十字病院	H22.1.1
	社会医療法人石州会 六日市病院	H22.1.1
	津和野共存病院	R4.3.11
隠岐	隠岐広域連合立隠岐病院	H15.4.1
	隠岐広域連合立隠岐島前病院	H16.7.14